

極良食味で炊飯米の外観が秀でた 水稲品種「つや姫」の育成と普及

結城 和博 氏（61歳）

鶴岡市新規就農者研修受入協議会 シニアアドバイザー
（元山形県農業総合研究センター水田農業試験場長）



1 業績の概要

背景

平成3年に山形県が育成した水稲品種「はえぬき」は県内作付面積の約6割を占める山形県の主力品種となっているが、全国的な知名度不足が囁かれ、生産者団体等からは「コシヒカリ」を超える新たな水稲品種の育成が強く望まれていた。

研究内容・成果

水稲品種の選抜において、炊飯米の外観を「つや（光沢）と外観」で評価していたが、「白さ」を加えて3項目に分けて評価するとともに、分光測色計を利用した新たな「炊飯米の外観」の評価法を確立した。この評価法を取り入れ、炊飯外観に秀でた良食味の「つや姫」を育成した。また、「つや姫」の良食味を確保するための栽培技術を確認するとともに「つや姫栽培マニュアル」を作成し、生産者や生産者団体に直接指導するなど、「つや姫」栽培技術の普及定着を図った。

ブランド化戦略の企画立案と推進にも深く関わり、全国の消費者に評価される高品位良食味米安定生産確立の基礎を築いた。

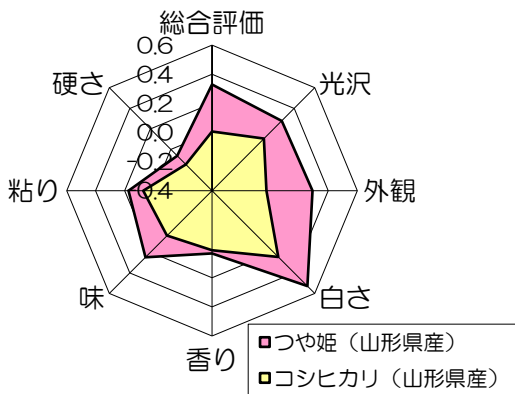


図1 「つや姫」の食味官能試験結果
(H14~R2 基準: 「はえぬき」)

※「つや姫」は外観等が優れ総合評価が高い

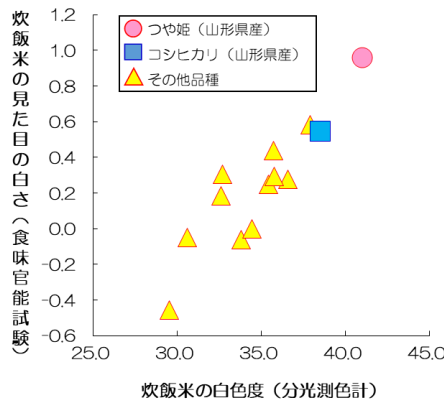


図2 分光測色計による白さ度と食味官能試験による見た目の白さ

※「つや姫」は見た目も白さ度も高い



図3 水稲品種「つや姫」栽培マニュアル

普及状況

「つや姫」は、近年の米価の情勢下においても消費者の支持により価格が安定し、県内作付面積は令和3年現在、9,800haに拡大している。県外の普及状況については、宮城県、島根県等9県で奨励品種に採用され、全国の作付面積は約16,000haに達している。また、「山形方式」とも言われる「つや姫」ブランド化の取組は他県からも注目され、各県が新品種のブランド化を図る中で参考にされている。

2 評価のポイント

良食味品種の育成に当たり、食味官能試験における新たな外観評価法の導入や分光測色計を用いた炊飯米の白さの数値化など新たな手法を開発したことは、今後の水稲育種に大いに貢献するものである。また、良食味で高温耐性を持つ「つや姫」は、良食味品種開発の目標となっており、ブランド化戦略の推進とともに、国内水田農業の活性化に果たす役割も大きく、その業績を高く評価した。

【連絡先】山形県農業総合研究センター

(住所: 〒990-2372 山形県山形市みのりが丘6060-27 TEL: 023-647-3500)